

～小学校3・4年生編～

いいね！

の本だな



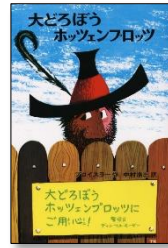
山梨県立図書館  
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY



『ウエズレーの国』

ポール・フライシュマン/作 ケビン・ホークス/絵  
千葉茂樹/訳 あすなろ書房 1999年

みんなとちがうウエズレーには友だちが  
いません。でもそんなこと全く気にしない  
ウエズレーが夏休みに始めた自由研究が思  
わぬじたいをまねき……？ 自分だけのさ  
まざまなものを作り出すがたががすが  
しい一冊です。



『大どろぼうホツエンプロッツ』

プロイスラー/作 トリップ/絵 中村浩三/訳 偕成社  
2010年

おばあさんのだいじなコーヒーひきが、大  
どろぼうホツエンプロッツにぬすまれた！  
カスパールは、仲良しのゼッペルと大どろぼ  
うを追いかけます。次から次へとどきどきが  
まっている、大ぼうけんのはじまりです。



『かあちゃん取扱説明書』

いとうみく/作 佐藤真紀子/絵 童心社 2013年

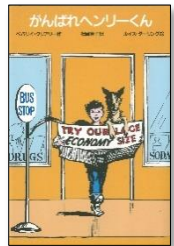
哲哉にガミガミおこってばかりのかあちゃ  
んは、ほめるときげんがよくなります。それ  
をうまく使って、かあちゃんが哲哉の思い通  
りになるように「取扱説明書」にまとめるこ  
とにしました。



『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ラッセル・E・エリクソン/作 ローレンス・ディ・フィオリ/絵  
佐藤涼子/訳 評論社 2008年

ミミズクにつかまったヒキガエルのウォ  
ートン。ミミズクは、誕生日の火曜日にウォ  
ートンをごちそうにするというのです。その日  
まであと6日。ウォートンがしたことは？



『がんばれヘンリーくん』

ペバリイ・クリアー/作 松岡享子/訳  
ルイス・ダーリング/絵 学研 2007年

ひろった犬をつれてこっそりバスで帰ろう  
としたら、とちゅうで犬があばれだした！  
大特価のグッピーを買ったら、ふえつづけて  
へやがグッピーだらけに！ ヘンリーのまわり  
でゆかいな事件が次つぎ起こります。



『岸辺のヤービ』

梨木香歩/著 小沢さかえ/画 福音館書店 2015年

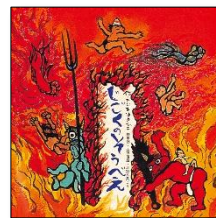
ヤービは2本足で歩く小さな生き物、ク  
ーイ族の少年です。ある日、湖の岸辺でうっか  
り大声を出し人間に見つかってしまいました。  
ところが人間はヤービをつかまえず、ミルク  
キャンディーをくれたのです。



『黒ネコジェニーのおはなし 1  
ジェニーとキャットクラブ』

エスター・アベリル/作・絵 松岡享子・張替恵子/共訳  
福音館書店 2011年

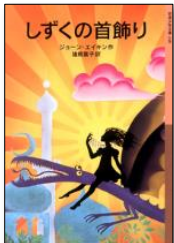
みなしごの黒ネコ、ジェニー・リンスキー  
は、はにかみやの小さなネコ。かい主のキャ  
プテン・ティンカーが作ってくれた赤いマフ  
ラーが目じるしです。勇気と工夫で近所の  
キャットクラブに入るジェニーのお話です。



『じごくのそうべえ』

田島征彦/作 童心社 1978年

つなわたりのとちゅうで地面に落ち、死  
んでしまったそうべえは、医者、歯医者、山伏  
といっしょにえんま様の前に。「じごくゆき  
じゃ」と言われ、鬼にのまれてしまいます。  
そうべえはじごくからにげ出すことができ  
るでしょうか？



『しずくの首飾り』

ジョン・エイケン/作 猪熊葉子/訳 岩波書店 2019年

名付け親の北風から、ローラはしずくの首  
飾りをもらいました。誕生日にひとつづつ  
ふえる雨つぶには不思議な力がありました。  
雨つぶ4つで雨にぬれなくなり、雨つぶ9つ  
で手をたたくと雨を止めることができました。



『白いぼうし 車のいろは空のいろ』

あまきみこ/作 北田卓史/絵 ポプラ社 2005年

空色のタクシーを運転する松井五郎さん。  
手を上げて、松井さんのタクシーにのれば、  
いつもとちがうできごとがおこります。松  
井さんとふしぎなお客さんたちとの心あた  
たまるふれあいをえがいた作品集です。

『歌うねずみウルフ』

ディック・キング=スミス/作 三原泉/訳 杉田比呂美/絵  
偕成社 2002年

『風のローラースケート 山の童話』

安房直子/作 小沢良吉/画 福音館書店 2013年

『グレッグのダメ日記 グレッグ・ヘフリーの記録』

ジェフ・キニー/作 中井はるの/訳 ポプラ社 2008年

『オバケだって、カゼをひく！ 内科・オバケ科  
ホオズキ医院』

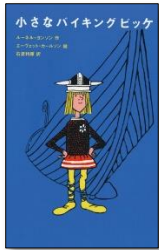
富安陽子/作 小松良佳/絵 ポプラ社 2006年

『くまのパディントン』

マイケル・ボンド/作 松岡享子/訳 ベギー・フォートナム/画  
福音館書店 2002年

『じゅげむ』

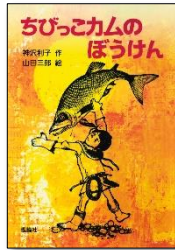
川端誠/作 クレヨンハウス 1998年



### 『小さなバイキングビッケ』

ルーネル・ヨンソン/作 エーヴェット・カールソン/絵  
石渡利康/訳 評論社 2011年

バイキングの子どもビッケは、勇もうな族長の息子。仲間も勇かんですが、けんかつ早く考えが足りません。バイキングとしてはおくびょうで力も強くないビッケですが、持ち前のちえで仲間を何度もすくいます。



### 『ちびっこカムのぼうけん』

神沢利子/作 山田三郎/絵 理論社 1999年

病気のおかあさんと2人でくらすカムは、どんな病気もおすいノチノクサがある火の山を目指して旅に出ます。しかし火の山にはおそろしい大男のオニ、ガムリイが住んでおり、かえってきたひとはいません……。



### 『ちびドラゴンのおくりもの』

イリーナ・コルシュノフ/作 酒寄進一/訳 伊東寛/絵  
国土社 1989年

少年ハンノーは字を書くこと、読むことやでんぐり返しが苦手です。苦手なことをからかわれる学校も大きらいでした。ところがある日、小さなドラゴンと出会い、人間の学校で習うことを「教えて」とたのまれました。



### 『チームふたり』

吉野万理子/作 宮尾和孝/絵 学研 2013年

小学校最後の大会で最強のダブルスを組みたかった卓球部のキャプテン大地。ところが、先生が決めたパートナーは5年生の純でした。試合まであと3ヶ月、このチームで勝つには？大地の友だちハセッチが主役のお話ものっています。



### 『天才コオロギニューヨークへ』

ジョージ・セルデン/作 ガース・ウィリアムズ/絵  
吉田新一/訳 あすなろ書房 2004年

夜ふけのニューヨークできこえた、ふしぎな音。その音を出していたのは、美しい声のコオロギでした。いなかからやってきたコオロギのチェスターがニューヨークの町に音楽の奇跡を起こします！



### 『ともだちは海にのびる』

工藤直子/作 長新太/絵 理論社 2004年

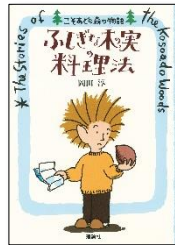
夜、いるかが背泳ぎしながら散歩をしていると何かにこつんとぶつかりました。それは大きなくじらでした。いっしょにお茶を飲むことにした2ひきは、何が好きか話しました。いるかは体そうが好きです。では、くじらは？



### 『百まいのドレス』

エレナー・エステイス/作 石井桃子/訳  
ルイス・スロボドキン/絵 岩波書店 2006年

「ドレスを何まい持っているの？」まずしい少女ワンダに、わざとたずねるクラスメイトのベギーやマデライン。やがて学校に来なくなったワンダが、クラスみんなにあてた手紙とは……。いじめについて考える物語。



### 『ふしぎな木の実は料理法』

岡田淳/作 理論社 1994年

少年スキッパーの家に、南の島から木の实ポアポアがとどきました。でも、手紙がぬれ、どうやって料理をするのか書いた部分が読めません。そこでスキッパーは勇気を出し、近くに住むトマトさんとポットさんの家に聞きに行きました。



### 『魔女学校の一年生』

ジル・マーフィ/作・絵 松川真弓/訳 評論社 2002年

カックル魔女学校の1年生ミルドレッドは、うっかり屋で問題を起こしてばかり。ハ口ウィーンのパーティーでも大失敗をし、とうとう学校からにげ出します。ところが、たどりついた先の森で悪い魔女たちのたくらみを聞いてしまい……？



### 『ルドルフとイッパイアッテナ』

斉藤洋/作 杉浦範茂/絵 講談社 1987年

読み書きができる黒ねこのルドルフ。文字を教えた大きなトラねこのイッパイアッテナ。金物屋のブチねこのブッチー。東京で生きる3びきのねこの友しよう物語。30年以上続く人気シリーズで、5かんまで出ています。

### 『チョコレート戦争』

大石真/作 北田卓史/絵 理論社 1999年

### 『にんきもののひけつ』

森絵都/文 武田美穂/絵 童心社 1998年

### 『魔女の宅急便』

角野栄子/作 林明子/画 福音館書店 2002年

### 『なまけものの王さまとかしい王女のお話』

ミラ・ローベ/作 ブージ・ヴァイゲル/絵 佐々木田鶴子/訳  
徳間書店 2001年

### 『ぼくはアフリカにすむキリンといひます』

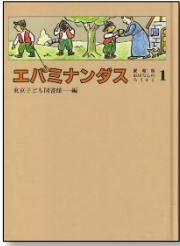
岩佐めぐみ/作 高畠純/絵 偕成社 2001年

### 『ミス・ビアンカくらやみ城の冒険』

マージェリー・シャープ/作 渡辺茂男/訳 岩波書店 2016年

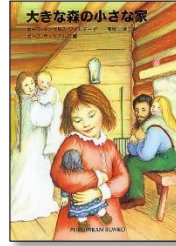
『エパミナダス』

東京子ども図書館/編 東京子ども図書館 1997年  
ある日、エパミナダスがおばさんの家  
に行くと、おみやげに黄色くふわふわした  
おいしそうなケーキをもらいました。エパ  
ミナダスはケーキを指でギュウツとにぎ  
り持って帰りました。すると家に着いた時、  
ケーキは……。



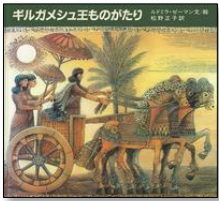
『大きな森の小さな家』

ローラ・インガルス・ワイルダー/作 恩地三保子/訳  
ガース・ウィリアムズ/画 福音館書店 2002年  
北アメリカの大きな森に、ローラは両親と  
姉のメアリイ、妹のキャリーと住んでいます。  
まわりに他の家はなく、野生動物がたくさんく  
らしています。今から100年以上昔の、自然  
ゆたかな土地での暮らしをえがいています。



『ギルガメシュ王ものがたり』

ルドミラ・ゼーマン/文・絵 松野正子/訳 岩波書店  
1993年  
神でも人間でもあったウルクの王、ギルガ  
メシュ。ギルガメシュには友だちがなく、ふ  
しあわせでした。女神がつくった人間エンキ  
ドゥとのたたかいで、エンキドゥに命をすく  
われ、人間としての心をとりもどします。



『ゴハおじさんのゆかいなお話』

エジプトの民話』  
デニス・ジョンソン・デイヴィーズ/再話 ハゲ・ハムディ・  
モハンメッド・ファトゥーフ、ハーニ・エル・サイド・アハマド/絵  
千葉茂樹/訳 徳間書店 2010年  
まがぬけているけれど、ときどきものすご  
くかしこいゴハおじさんが主人公。何百年も  
の間、エジプトの人々のあいだで語りつがれ  
てきた、ユーモアたっぷりの15のお話。



『せかいいちおいしいスープ  
あるむかしばなし』

マーシャ・ブラウン/文・絵 こみやゆう/訳 岩波書店  
2010年  
はらぺこの3人の兵隊が村にやってきました  
た。村人たちから食べものを分けてもらえな  
かった3人は石のスープを作ると言いしまし  
た。さて、どうやって作るのでしょうか。



『ドリトル先生アフリカゆき』

ヒュー・ロフティング/作 井伏鱒二/訳 岩波書店  
2000年  
名医のドリトル先生は、かっていたオウム  
に動物の言葉を教えられ、動物と話せるじゅ  
う医になりました。サルを病気からすくうた  
めアフリカを目指し、動物たちと協力して、  
さまざまな困難を見事に乗り切ります。



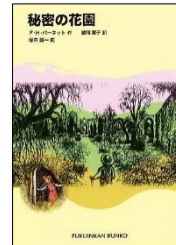
『長くつ下のピッピ』

アストリッド・リンドグリーン/作 イングリッド・ヴァン・  
ニイマン/絵 菱木晃子/訳 岩波書店 2018年  
おさないときに母親が死に、父親も船旅中  
に波にさらわれて行方不明。それでもたくま  
しく毎日を生きていくピッピ・ナガクツシタ。  
やることなすこと変わっている、自由でゆか  
いな9さいの女の子の物語です。



『秘密の花園』

F・H・バーネット/作 猪熊葉子/訳 堀内誠一/画  
福音館書店 2003年  
愛を知らずに育った少女メリーは両親を失  
いおじに引き取られます。大きなやしきには  
かぎのかかった部屋や入口が見つからない庭  
園がありました。どうやらこの家には秘密が  
あるようで……。こどくな少女の再生の物語。



『ふたりのロッテ』

エーリヒ・ケストナー/作 池田香代子/訳 岩波書店  
2006年  
夏休みにおとずれた子どもの家で、ルー  
ーゼは自分にそっくりな少女、ロッテに出会  
います。初めこそ、はらを立てたルーエゼで  
したが、ふたりは大の仲良しになります。同  
じ時をすごすうちに、ふたりはある秘密に気づ  
き……。



『みどりのゆび』

モーリス・ドリュオン/作 安東次男/訳 岩波書店  
2002年  
少年チトは、庭師の仕事を手伝っている時、  
自分の親指に不思議な力があることを知りま  
した。親指をおし付けると、うもれていた草  
や木の種が芽を出し大きくなるのです。チト  
はこの指で、世界を変えていきます。



『アンデルセン童話集 1』

アンデルセン/著 大畑末吉/訳 岩波書店 2000年

『クマのプーさん』

A.A.ミルン/作 石井桃子/訳 岩波書店 2000年

『はじめてのギリシア神話』

尾高薫/文 堀川理万子/絵 徳間書店 2014年

『かみさまのおはなし』

藤田ミツ/原作 渡邊みどり/復刻提案 高木香織/構成 講談社  
2019年

『ごんぎつね』

新美南吉/作 岩波書店 2002年

『フランダースの犬』

ウィーダ/作 野坂悦子/訳 岩波書店 2003年



『**石の卵**』  
 たまご  
 山田英春/文・写真 福音館書店 2014年  
 表紙の写真の石は「ドラゴンの卵」です。まっぴたつに切ってみると、かいぶつや昆虫、人の顔にも見るとげとげしたもようが出てきます。もようを見たい人、どうやってできたか知りたい人は、本を開いてみましょう。



『**いろのかけらのしま**』  
 イ・ミンエ/作と絵 生田美保/訳 ポプラ社 2017年  
 海鳥が住む島には、川の流れや大きな波に乗って色のかけらが集まってきます。色のかけらは海鳥の友だちの命をあぶなくしたり、魚をへらしたりしてもいるようです。新しくできた島のことを海鳥が語ります。



『**絵ときゾウの時間とネズミの時間**』  
 本川達雄/文 あべ弘士/絵 福音館書店 1994年  
 大きなからだでゆっくりとうごくゾウも、小さなからだでせかせかしているネズミも、一生の間に心臓がうつ回数は同じ 15億回。でも、一生の長さはちがいます。それぞれの動物がそれぞれの時間を生きています。



『**かわ**』  
 鈴木のりたけ/著 幻冬舎 2010年  
 山に雨がふるところから、川がはじまります。はじまりの川「げん流」から中をのぞいてみましょう。生き生きと泳ぐ魚や虫。川のそこや岩場のようす。水の流れのはやさや、人のくらしが伝わってくる絵本です。



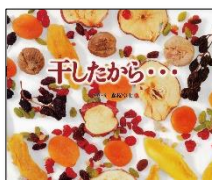
『**桜守のはなし**』  
 さくらもり  
 佐野藤右衛門/作 講談社 2012年  
 「桜は守りをしないといけない木なんです。」という十六代目桜守・佐野藤右衛門さん。桜の花が終わってから、佐野さんの1年間の仕事が始まります。桜と共に生きる人の本です。



『**そうだったのか! しゅんかん 図鑑**』  
 すかん  
 伊知地国夫/写真 小学館 2018年  
 シャボン玉はわれるとすぐ消えて、ちぎんでいくようすは見えません。そんな目では見えない動きのしゅんかんを写真にとりました。水が流れるとき、火をふきけすとき、たまごをわるとき、思いがけない形があらわれます。



『**ファーブル先生の昆虫教室**』  
 ほんのら  
**本能のかしこさとおろかさ**  
 奥本大郎/文 やましたこうへい/絵 ポプラ社 2016年  
 名作『ファーブル昆虫記』にイラストを付け解説した本です。トップバターは牛や羊のうんちを丸めた玉を、さか立ちし後ろ向きに転がす虫スカラベ。観察のポイントは？



『**干したから...**』  
 ほ  
 森枝卓士/写真・文 フレーベル館 2016年  
 やさいやくだもの、魚、肉などを干して作る食べものは、日本だけでなく世界中にたくさんあります。干さなくても食べられるものもありますが、なぜ干すのでしょうか。干すことのすごさがつまっています。



『**みなまた、よみがえる**』  
 くまもと  
 尾崎たまき/写真・文 新日本出版社 2013年  
 熊本県のみなまたの海は、昔は「魚湧く海」とよばれるほど、ゆたかで美しい海でした。海も人も苦しめられた「みなまた病」をのりこえて、生き生きとよみがえった今のみなまたの海を伝える写真絵本です。



『**わたしたちの家が火事です** 地球を救おうとよびかけるグreta・トゥーンベリ』  
 じゅせりや  
 ジャネット・ウィンター/文・絵 福本友美子/訳 鈴木出版 2020年  
 学校の授業で地球温暖化について学んだグreta。ふえている自然災害やほろびそうな動物たちのことを知り、気候変動を考える学校ストライキを始めました。

『**ざんねんないきもの事典 おもしろい! 進化のふしぎ**』  
 してん  
 今泉忠明/監修 下間文恵・徳永明子・かわむらふゆみ/絵 高橋書店 2016年

『**月のかがく**』  
 渡部潤一/監修 えびなみつる/絵と文 中西昭雄/写真 旬報社 2011年

『**北極と南極の「へえ〜」くらべてわかる地球のこと**』  
 ほつきよく なんきよく  
 中山由美/文・写真 秋草愛/絵 学研 2019年

『**地球 その中をさぐる**』  
 加古里子/ぶん・え 福音館書店 1975年

『**ぼくたちいそはまたんていだん**』  
 三輪一雄/作・絵 松岡芳英/写真 偕成社 2013年

『**山に木を植えました**』  
 スギヤマカナヨ/作 畠山重篤/監修 講談社 2008年

『せいめいのれきし 地球上にせいめい  
がうまれたときからいままでのおはなし』  
バージニア・リー・パートン/文・絵 いしいももこ/訳  
まなべまこと/監修 岩波書店 2015年



太陽が生まれたのはるか昔から今のあなたに  
つながるまでの長い命の物語を、おしばいの  
ようにえがいた絵本です。生きものたちがそ  
れぞれの時代の様子を見せてくれます。

『どう解く？ 答えのない道德の問題』

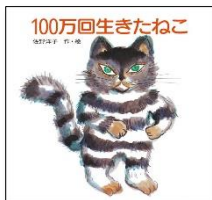
やまざきひろし/ぶん きむらよう・にさわだいらはるひと/え  
ポプラ社 2018年



「ついていい嘘と、ついていけない嘘って  
どう違うんだろう？」 「人数が多いほうが、正  
しいってどうして言えるんだろう？」 答えのな  
い、むずかしい問題について、いろいろな人に  
意見をききました。あなたなら、どう解く？

『100万回生きたねこ』

佐野洋子/作・絵 講談社 1977年



りっぱなとらねこは、100万回死んで、  
100万回生まれ変わりました。さまざま  
なかい主がとらねこが死ぬと泣きましたが、  
とらねこは泣きませんでした。あるとき、  
のらねこに生まれ変わったとらねこは、白  
いねこに出会うのですが……。

『わすれられないおくりもの』

スーザン・バーレイ/さくえ 小川仁央/やく 評論社  
1986年



森の動物たちにたよられ、愛されていたア  
ナグマが死んでしまいました。みんなは悲し  
んだまま寒い季節をすごします。春がきて、  
アナグマとの思い出を語りあううちに、アナ  
グマがのこしてくれた「おくりもの」に気が  
つきます。

『命をつなげ！ドクターヘリ 日本医科大学千葉北総  
病院より』

岩貞みこ/作 講談社 2008年

『ママはお医者さん おしごとのおはなしお医者さん』

あさのあつこ/作 本田亮/絵 講談社 2015年

『わたしの足は車いす』

フランチ＝ヨーゼフ・ファイニク/作 フェレナ・バルハウス/絵 さきたつこ/訳  
あかね書房 2004年

『おじいちゃんの口笛』

ウルフ・スタルク/作 アンナ・ヘグルンド/絵 菱木晃子/訳 ほるぷ出版  
1995年

『みえないってどんなこと？』

星川ひろ子/写真・文 岩崎書店 2002年

『わたしのいもうと』

松谷みよ子/文 味戸ケイコ/絵 偕成社 1987年

昔のくらし・戦争と平和

『「けんぼう」のおはなし』

井上ひさし/原案 武田美穂/絵 講談社 2011年



みんなの自由やしあわせをまもってくれて  
いる「けんぼう」とはどんなものでしょう？  
井上ひさしさんの授業をもとにしてつくられ  
たわかりやすい絵本で、「けんぼう」につい  
て知ってみましょう。

『さがしています』

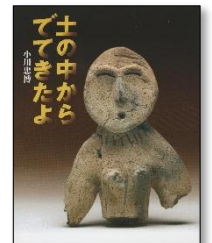
アーサー・ビナード/作 岡倉禎志/写真 童心社 2012年  
表紙写真:「鍵束」寄贈者・中村明夫 見開き写真:「時計」  
寄贈者・濱井徳三「軍手」寄贈者・浅野純以 (いずれも広  
島平和記念資料館所蔵)



8月6日の朝、ヒロシマに原子ばくだんが  
落ちました。時計、ぐん手、べんとうばこ、  
ワンピースなど、その時のこされたものたち  
が何かをさがしています。ものたちの声に耳  
をかたむけてください。

『土の中からでてきたよ』

小川忠博/写真と文 安孫子昭二/監修 平凡社  
2004年



5000年前の大昔を生きていた縄文人は、  
どんなものを食べてどんな生活をしてい  
たのでしょうか。土の中からでてきた人形や  
しよつき とき くびかさ いばき  
食器、土器、首飾りなど、遺跡で見つ  
つたいろいろなものが教えてくれます。

『へいわとせんそう』

たにかわしゆんたろう/ぶん Noritake/え ブロンズ新社  
2019年



家族や海、まち、道具などを「平和な場合」  
と「戦争の場合」でくらべています。少ない  
言葉と絵は心にのこり、特に最後の3つの例  
にはうったえかけのものがああります。平和と  
は何かを考えるきっかけになる絵本です。

『アンネ・フランクものがたり かくれ家の少女』

J・ハルウィッツ/作 斉藤美加/訳 高田勲/画 金の星社 1992年

『おばあちゃんの小さかったとき』

おちとよこ/文 ながたはるみ/絵 福音館書店 2019年

『おじいちゃんの小さかったとき』

塩野米松/文 松岡達英/絵 福音館書店 2019年

『ゲンバクとよばれた少年』

中村由一/著 渡辺考/聞き書き 宮尾和孝/絵 講談社 2018年

『マララさんこんにちは 世界でいちばん勇敢な少女へ』

ローズマリー・マカーニー/文 西田佳子/訳 西村書店 2014年



『キング牧師のかつよいことば』  
 マーティン・ルーサー・キングの生涯』  
 ドリーン・ラポポート/文 ブライアン・コリアー/絵  
 もりうちすみこ/訳 国土社 2002年  
 世界中の人びとがいっしょに平和にくらせるように、こぶしではなく言葉でたたかいつづけたキング牧師。かれの言葉は世界を動かしたし、いまわたしたちをはげましています。

\*品切重版未定



『しごとば』  
 鈴木のりたけ/作 ブロンズ新社 2009年  
 あこがれの仕事はどんな人がどんな所ではたらいているのでしょうか？ しごとばをこっそりのぞいてみましょう。はたらく人も、よそのしごとばでは、お客さんになっていることがわかります。楽しく、ためになる本です。



『世界がもし100人の村だったら』  
 池田香代子/再話 C.ダグラス・ラミス/対訳  
 マガジンハウス 2001年  
 世界を100人の村に例えてみると、どうなるでしょうか。性別、年れい、人種、信じるしゅう教……。出てくる数字のどこに自分があるのか考えるだけで、周りが少しちがって見えるはずですよ。

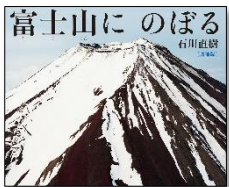


『みんなで作る1本の辞書』  
 飯田朝子/文 寄藤文平/絵 福音館書店 2015年  
 1本、2本と「本」を使って数えるのは何でしょうか。どんなすがたや形が思いつかびますか。「本」と数えるものを、人に聞いたり調べたりしてみたら、おどろくほどたくさんありました。

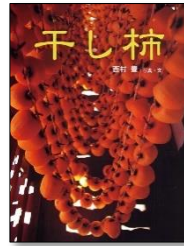
『アイヌ もっと知りたい! くらしや歴史』  
 北原モコットウナン・葦島栄紀/監修 岩崎書店編集部/企画・編集  
 岩崎書店 2018年  
 『せかいいっしゅうあそびのたび せかいのこっき せかいのあそび』  
 平澤南/絵 ベズル/文 寒川恒夫/監修 プレジデント社 2020年  
 『わたしのくらし世界のくらし 地球にくらす7人の子どもたちのある1日』  
 マット・ラマス/作・絵 おおつかのりこ/訳 汐文社 2018年

『世界あちこちゆかいな家めぐり』  
 小松義夫/文・写真 西山晶/絵 福音館書店 2004年  
 『7年目のランドセル ランドセルは海を越えて、アフガニスタンで始まる新学期』  
 内堀タケン/写真・文 国土社 2020年

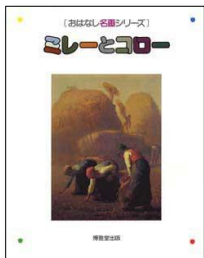
やまなしを知る



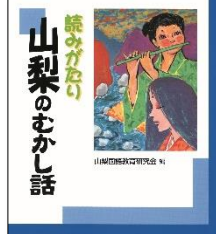
『富士山にのぼる』  
 石川直樹/著 アリス館 2020年  
 冬の日、日本一高い富士山に登りました。氷と雪と強い風の世界を1歩ずつ進み、夜をテントですごして山頂へと向かいます。ページをめくるたび、富士山のすばらしい景色が広がります。



『干し柿』  
 西村豊/写真・文 あかね書房 2006年  
 干し柿は、山梨県でたくさん作られています。あま柿ではなくしぶ柿から作ります。そのままではおいしくないしぶ柿は、自然や人の力によっておいしい干し柿になっていきます。作り方を見ていきましょう。



『ミレーとコロー』  
 ミレー、コロー/画 森田義之/監修 西村和子/企画・構成 小手鞠るい/原文 博雅堂出版 2003年  
 ミレーとコローは、2人ともフランスの画家です。19世紀ごろ、ミレーは農民のくらしをえがき、コローは主に景色の絵をかいてかつやくしました。それぞれ、大自然や人びとをえがいた作品が感動的です。



『読みがたり山梨のむかし話』  
 山梨国語教育研究会/編 日本標準 2004年  
 富士山と八ヶ岳の背くらべの話「八ヶ岳のよいたちと美し森」、山姥に追われるこわい話「お天道さん金の綱」など、山梨に伝わる48話の昔話が入った本です。じいじ、ばあばから聞いた昔話も入っているでしょうか？

『川を治め水と戦った武将たち 武田信玄・豊臣秀吉・加藤清正』  
 かとうきよまさ  
 かこさとし/作 瑞雲舎 2004年  
 『ふとこにいだく生命の水・富士の自然』  
 近田文弘・西川肇/著 大日本図書 1994年

『小林一三 阪急と宝塚をつくった事業家』  
 こばやしいちぞう  
 はんきゅう たからづか  
 じぎょうか  
 伊井春樹/監修 柴田こずえ/構成・文 青山友美/絵 岩崎書店 2018年  
 『森のスケーターヤマネ』  
 湊秋作/著 金尾恵子/絵 文研出版 2000年

## いいね！の本だな ～小学校3・4年生編～



発行日 令和3年3月20日

編集・発行 **山梨県立図書館**

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

〒400-0024

甲府市北口2丁目8番1号

T E L 055-255-1040

F A X 055-255-1042

U R L <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先

山梨県子ども読書支援センター（山梨県立図書館内）



- \* 当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。
- \* 本冊子は個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。
- \* 学校（小・中・高・特別支援）でのプリントアウト・コピー・無料配布が可能です。（改変・切除はご遠慮ください。）